

植物園北遺跡

(財)京都市埋蔵文化財研究所 吉本健吾

植物園北遺跡の立地

植物園北遺跡は、京都盆地の平野部の北端、賀茂川と高野川が合流する地点の北西方向に位置しています。京都府立植物園の一部を含む北側一帯、賀茂川左岸の上賀茂神社（賀茂別雷神社）の周辺を頂点として南東に向かって穏やかに傾斜する扇状地上に広がる推定範囲 140 万㎡を越える京都市内でも最大級の遺跡のひとつです。遺跡の北には、本山・神宮寺山などをはじめとする標高 130 ～ 170 m の山塊が存在し遺跡の北を画しています。その山々に抱かれるように氷河期の水生植物が遺存することで著名な深泥池が存在しています。また、遺跡の北西に接して上賀茂神社があり、やや離れた南東方向には下鴨神社（賀茂御祖神社）が存在することから、古代カモ氏との関連が指摘されています。（図 1）

埋蔵文化財の調査の方法

埋蔵文化財の調査には大きく分けて、発掘調査、試掘調査、立会調査、分布調査があります。

発掘調査は、遺跡の範囲内で通常の建物等が建設されることによって、確実に埋蔵文化財が破壊される場所を工事前に調査します。一般的に埋蔵文化財の調査と言えば、この発掘調査のことと理解されています。

試掘調査は、遺跡の範囲内で通常の建物等が建設される場所に破壊される埋蔵文化財があるかなを確認するために、工事開始前に一部を試しに調査します。その調査結果で発掘調査に切り替わることがある、発掘調査の事前調査です。

立会調査は、遺跡の範囲内で発掘調査や試掘調査を行わなかった工事現場で、埋蔵文化財があるかないかを確認するために工事の掘削に立ち会いながら調査します。工事現場で調査するため、危険を伴います。

分布調査は、まだ埋蔵文化財が存在しないとされている地域の地表に埋蔵文化財の痕跡がないかを調査します。地表に土器などの遺物が散布しているということは、その付近に遺跡が存在する有力な根拠となるからです。このような発見があって新しい遺跡が見つかるのです。

植物園北遺跡は、この分布調査で発見され、立会調査で遺跡の性格が分かった、非常に珍しい遺跡です。

植物園北遺跡の発見

1974 年、地下鉄烏丸線建設工事に先立って、京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会が工事計画範囲内にある埋蔵文化財の調査を行ないました。次に、北山通の北側の分布調査によって田畑から数十

片の土器のかけらが採集されました。土器の中には灰釉陶器や土師器、須恵器などの平安時代の遺物や時代の不明な遺物がありました。その成果から、京都府立植物園の北側一帯が遺物散布地として遺跡に認定されました。そして、『遺跡地図台帳』作成のおり、「植物園北遺跡」と名付けられました（図 2）。

大規模集落跡の発見の経緯

1979 年、植物園の北側一帯に公共下水道を敷設する工事が行なわれることになりました。下水道工事は、下水管を埋設するために道路部分を幅 1 m、深さ 2 ～ 3 m 程の掘削規模で何 km にもわたって連続して掘り起こしていきます。遺跡の範囲であるため、工事に伴い立会調査を行なうことになりました（図 3）。

分布調査によって発見された植物園北遺跡でしたが、その遺跡の規模や性格・年代は分かっていなかったため、この下水道工事の立会調査の成果は画期的なものになりました。

一般的な発掘調査では、遺構面を時代を遡って何面も調査していきませんが、下水道工事の立会調査では遺構面を確認することは殆どできず、工事で細長く掘られた溝の壁の地層断面を観察して記録をとることになります。しかし、そのことによって一般的な発掘調査の成果では得られない、広範な遺跡の広がりや内容を知る絶好の機会となりました。

京都市埋蔵文化財研究所では、北山通から北へ向かって徐々に始まった下水道工事に合わせて立会調査を実施しました。まず、古墳時代前期の遺物を包含する小さな溝を発見しました。それから、弥生時代から平安時代にかけての遺構や遺物が、次々と下水道工事の現場で見つかりました。そして、古墳時代前期の竪穴住居跡を発見するに至り、当遺跡は単なる遺物散布地ではなく、弥生時代から平安時代にわたる集落跡として認識されました。

この調査で発見された竪穴住居跡は弥生時代後期から古墳時代後期のもので、弥生時代後期から古墳時代前期が 38 基、古墳時代後期が 3 基の合計 41 基が見つかりました（図 5-1）。また、その場所は西は上賀茂神社の東約 200 m の地点から、東は下鴨本通と北山通の交差点の北約 250 m の地点と植物園の北側を東西方向に長く広がっていました。

これまでの調査

その後、2011 年度までに植物園北遺跡では、発掘調査 24 件、試掘調査 59 件、立会調査 297 件の合計 380 件の調査が行われています（表 1）。遺跡の年代も縄文時代まで遡るなど、徐々にではありますが遺跡の様相も判明しつつあります。

縄文時代の遺構・遺物は、9 箇所調査で発見されています（図 4、表 2）。最初の発見は 1979 年の下水道工事の立会調査です。9 箇所の内訳は晩期の土器棺墓が 2 箇所（図 4-3・5）、中期と晩期の土坑が 2 箇所（図 4-6・9）、晩期の凹地状堆積が 1 箇所（図 4-1）、晩期の土器が 2 箇所（図 4-2・7）、石製品が 2 箇所発見されています（図 4-4・8）。植物園北遺跡の東部では発見例はありません。また、今だ住居跡の発見はありませんが、遺構の存在からみてもこの付近に集落が存在するのは間違いのないでしょう。

植物園北遺跡の遺構で最も多く発見されているのが、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡です(図5・6、表3)。2011年までで植物園北遺跡での竪穴住居跡の発見数は137基ありますが、弥生時代後期から古墳時代前期のものは111基もあります。範囲は上賀茂小学校付近からノートルダム女学院付近にかけての約350mの幅で、北西から南東方向に広がっています。

近年、ノートルダム女学院で大規模な改築工事が2010年から始まり、それにとまなう発掘調査でも、この時期の竪穴住居跡を発見しています。発掘調査とともに立会調査も実施しており(図6-28・30)、そこでも多数の竪穴住居跡を発見しています。また、ノートルダム女学院の北側にあたる北山ふれあいセンターの発掘調査(図6-26、図9)でも弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡が9基発見されています。また、東側の共同住宅建設の立会調査(図6-22)で6基発見しています。これらのことからノートルダム女学院周辺には、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡が濃密に存在しており、集落の中心のひとつになると考えられています。

古墳時代後期の竪穴住居跡の発見数は13基(図7)で、発見場所は植物園北遺跡の西部と東部に別れています。西部は上賀茂小学校付近(図7-1・13)に6基、東部は京都コンサートホールの調査(図7-11)とノートルダム女学院の調査(図7-10)とその2箇所の中間点南の地点(図7-25)の3箇所で7基です。最後の地点は2006年の立会調査で発見されたものですが、当時この地点は植物園北遺跡の範囲外の場所で、本来ならば調査できない工事現場でしたが、文化財に理解のある建築主の協力の元、立会調査をさせていただけることになり、調査の結果、古墳時代後期の竪穴住居跡などを発見することができました。この竪穴住居跡の発見によって植物園北遺跡の範囲が南へ約100m広がることになりました(図10)。

飛鳥時代から奈良時代の竪穴住居跡の発見数は10基(図8)で、発見場所は植物園北遺跡の南東部に限られます。京都コンサートホールの調査(図8-11)とノートルダム女学院の調査(図8-28)とノートルダム女学院の東側の地点の調査(図8-27)、京都コンサートホールとノートルダム女学院の中間点を南の地点の調査(図8-29)の4箇所です。最後の地点は前述の植物園北遺跡の範囲が南へ広がったおかげで調査の対象となった場所です(図10)。

この様に植物園北遺跡は縄文時代の生活の場所をほぼ踏襲する形で、弥生時代後期から古墳時代前期の大集落が形成され、古墳時代後期には、大きく生活の場を西と東に振り分け、更に飛鳥時代から奈良時代に至っては南東のみに限られていきます。これらが、植物園北遺跡の今日までの調査で分かったことです。

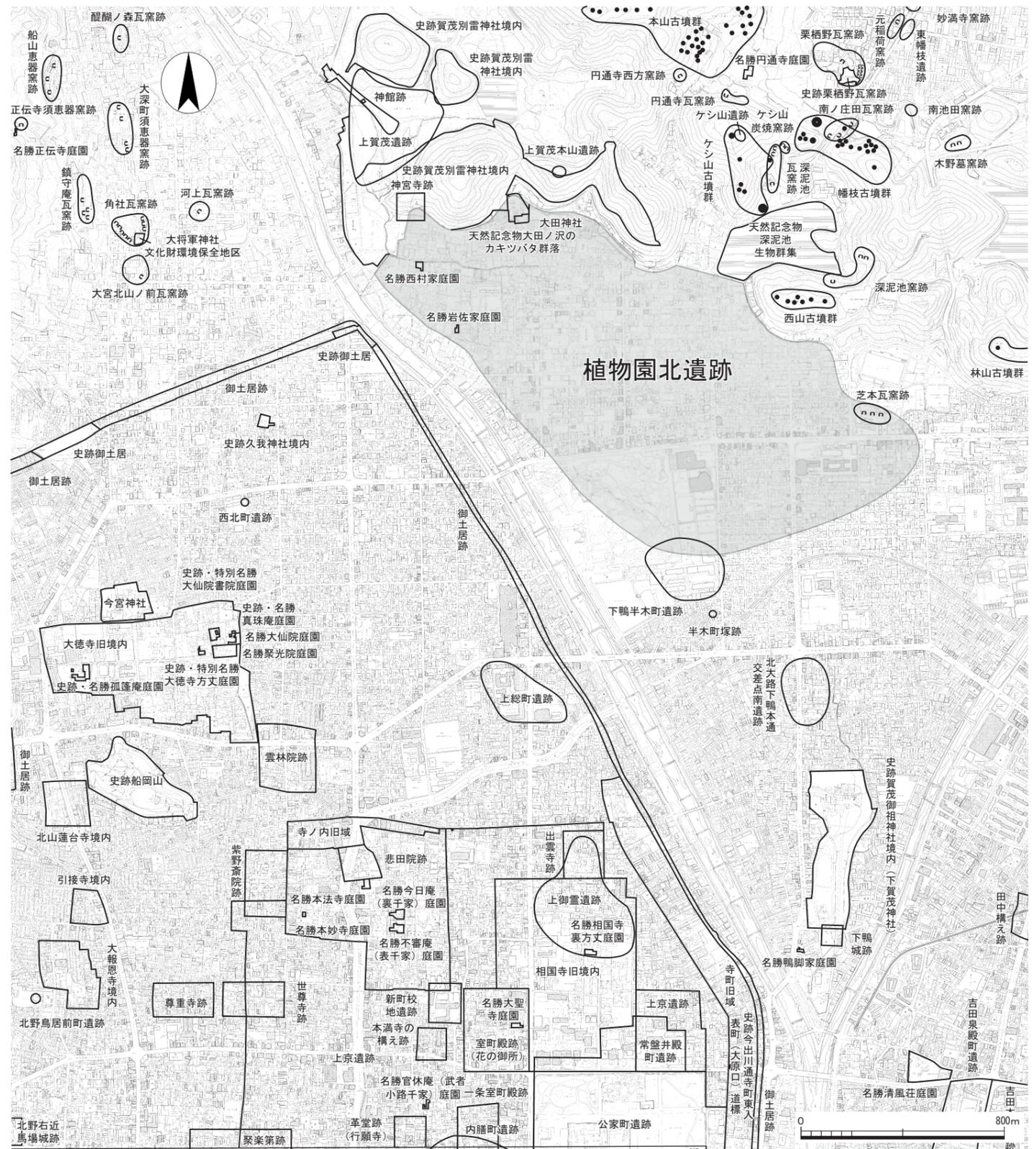


図1 植物園北遺跡と廻りの遺跡群

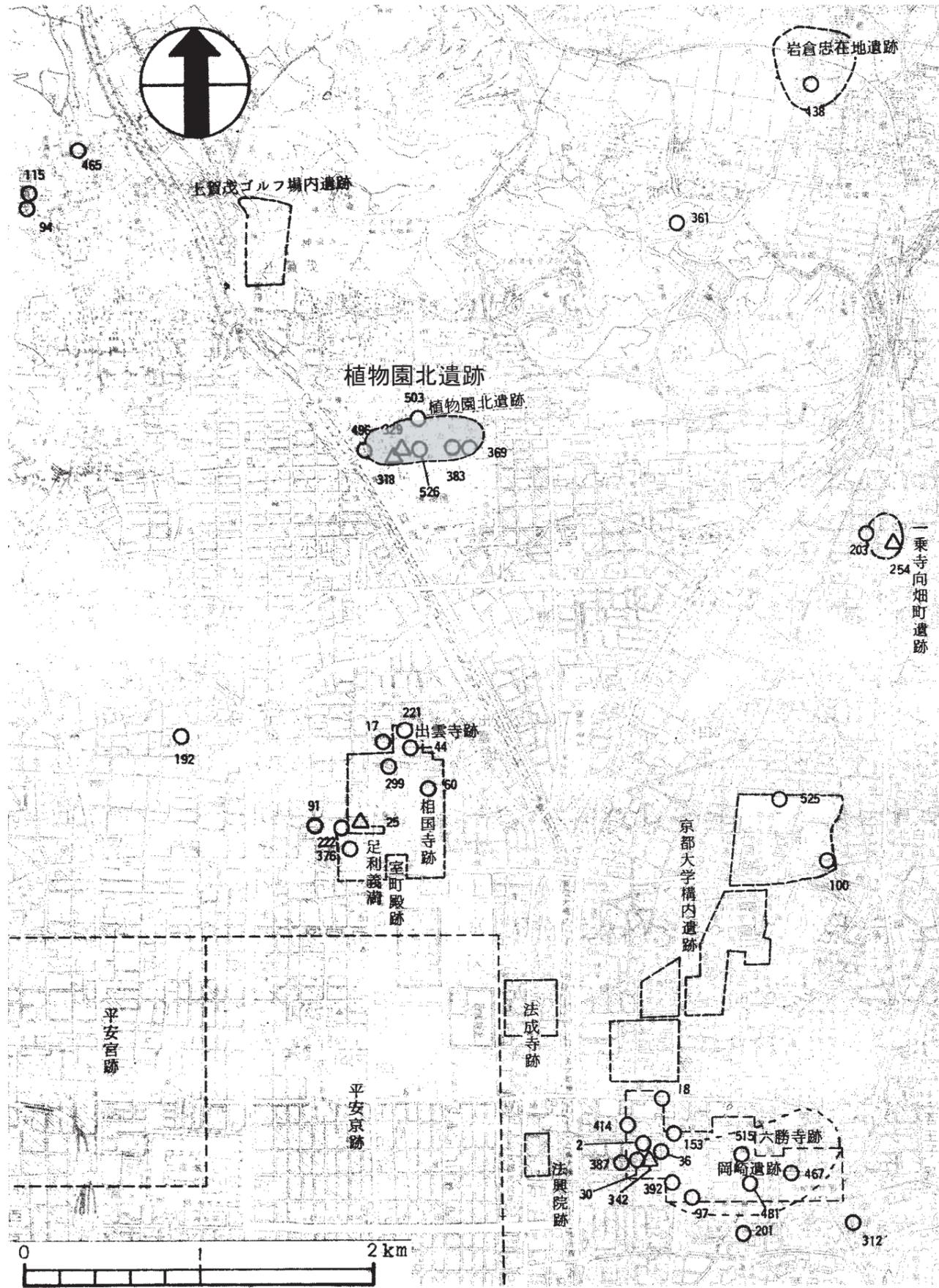


図2 79年の洛北遺跡図

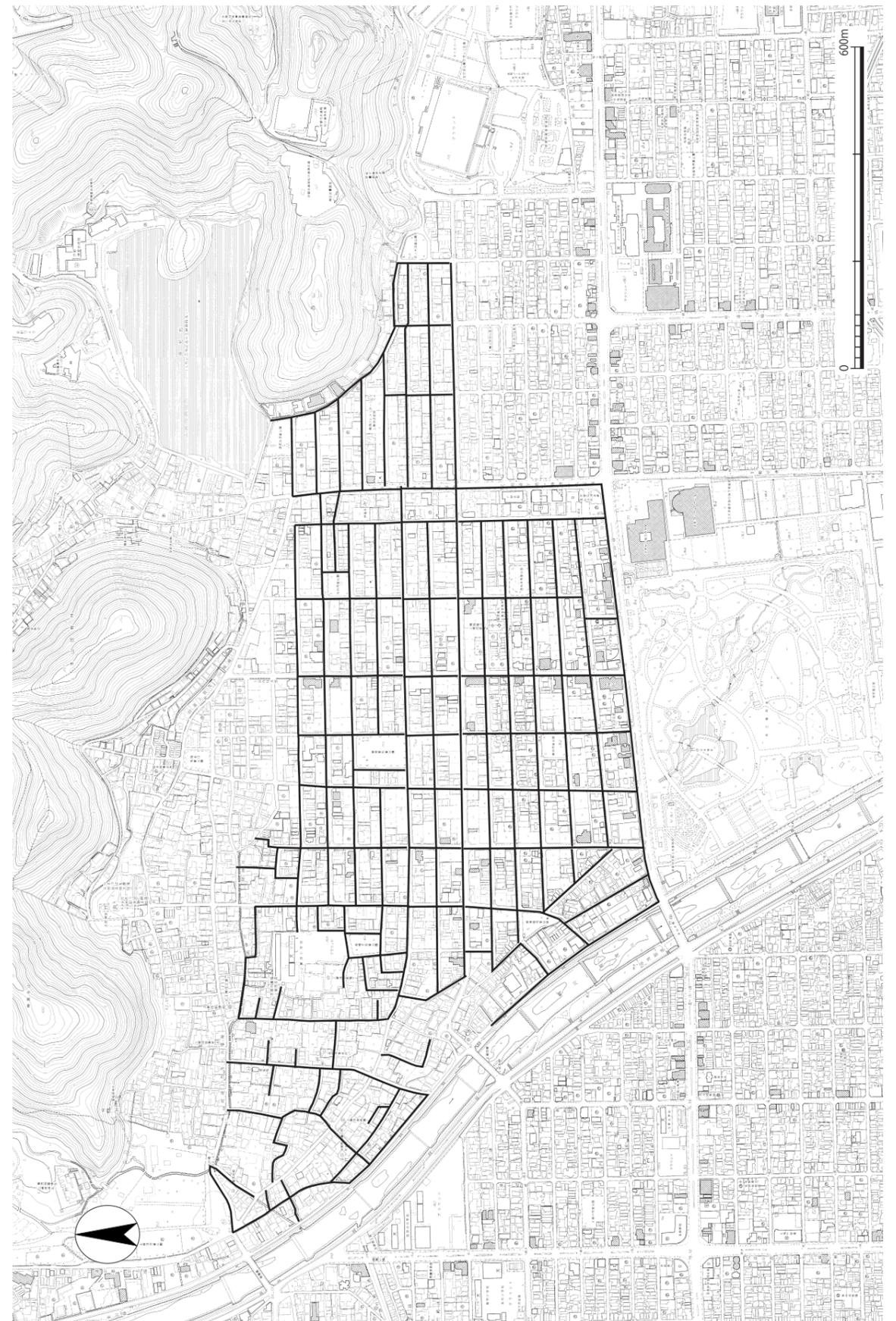


図3 79年～81年の下水道工事立会調査位置図

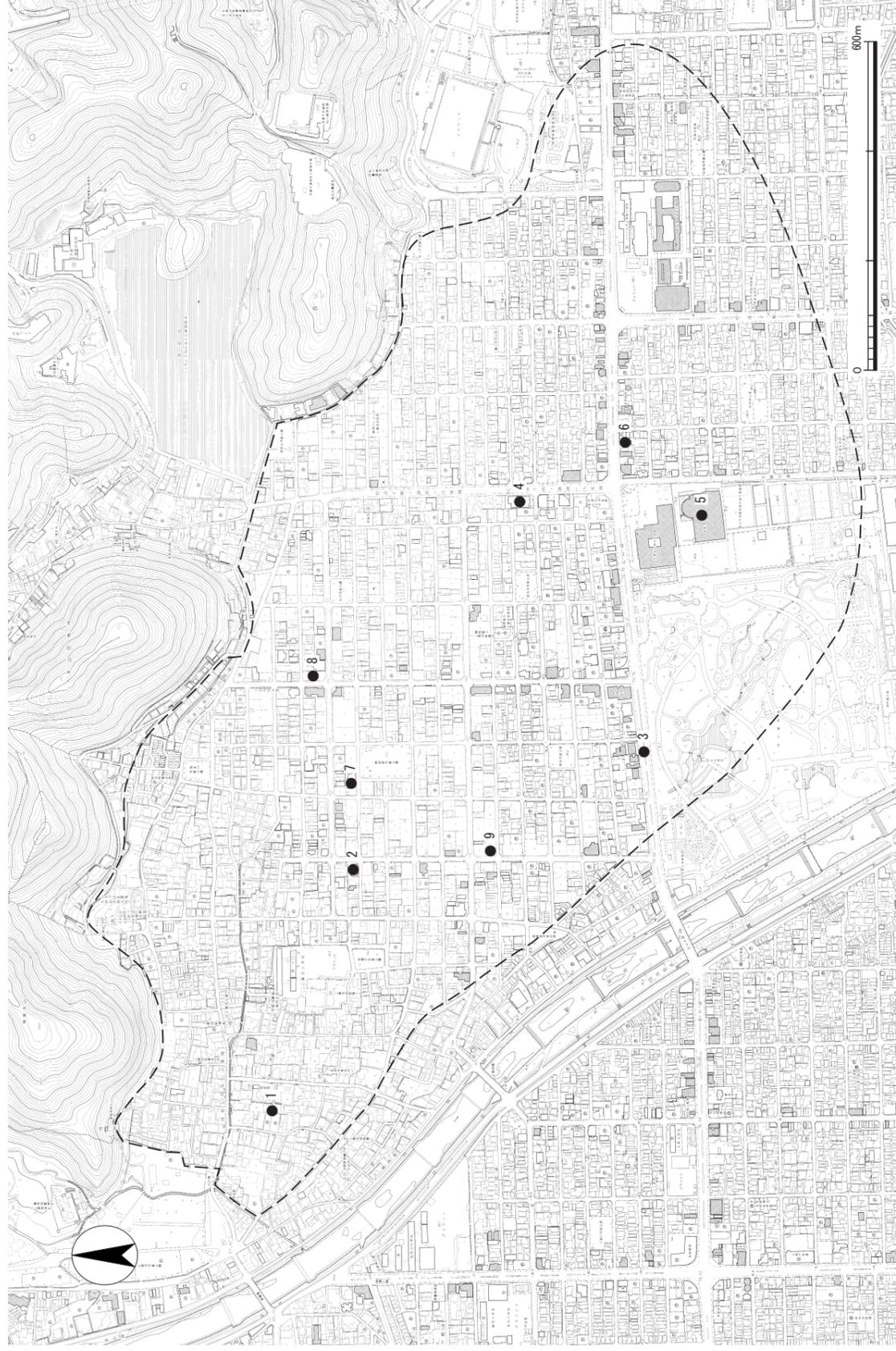


図4 縄文時代の遺構・遺物の発見地点（表2）

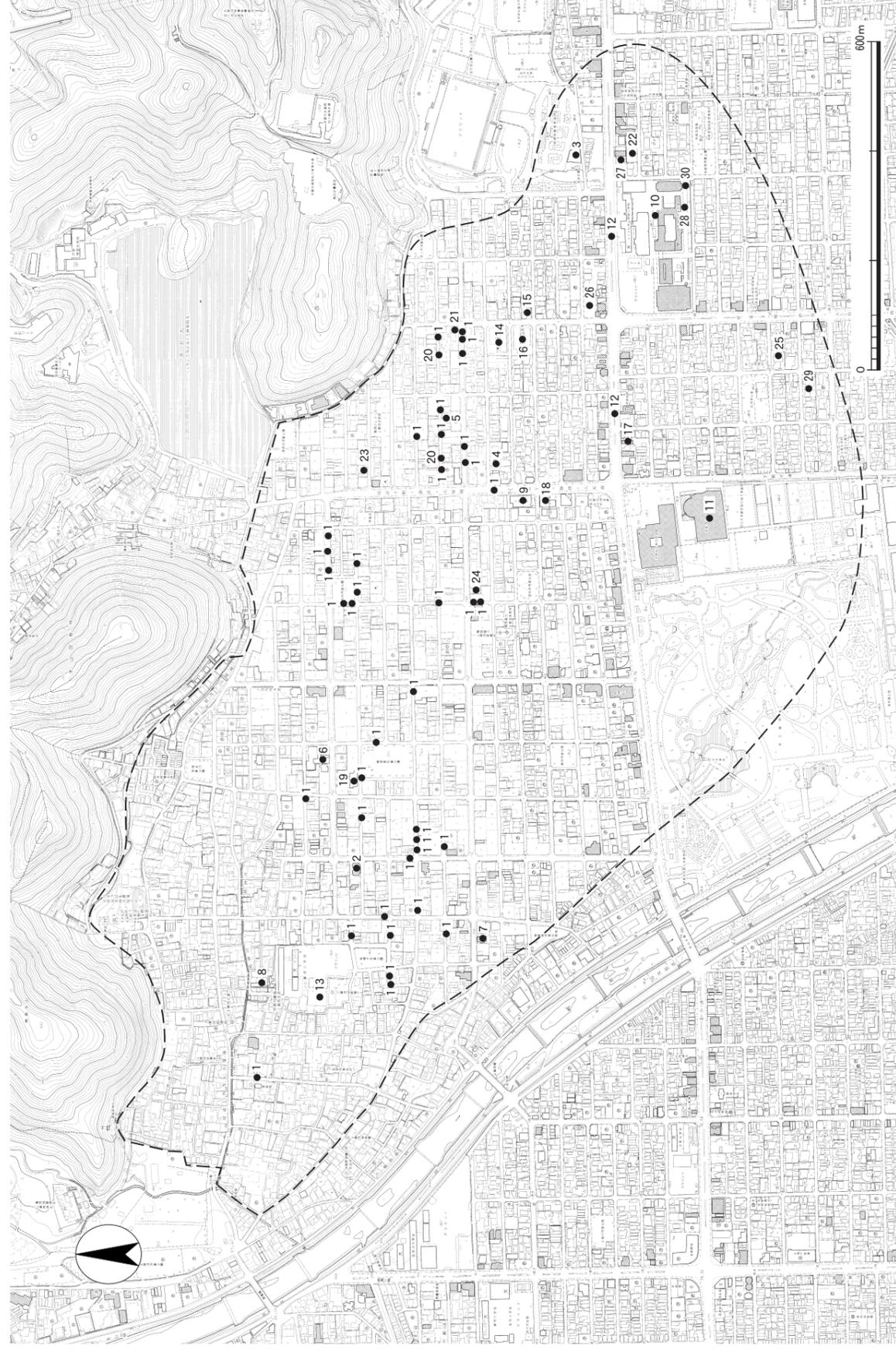


図5 竪穴住居跡の発見地点（表3）

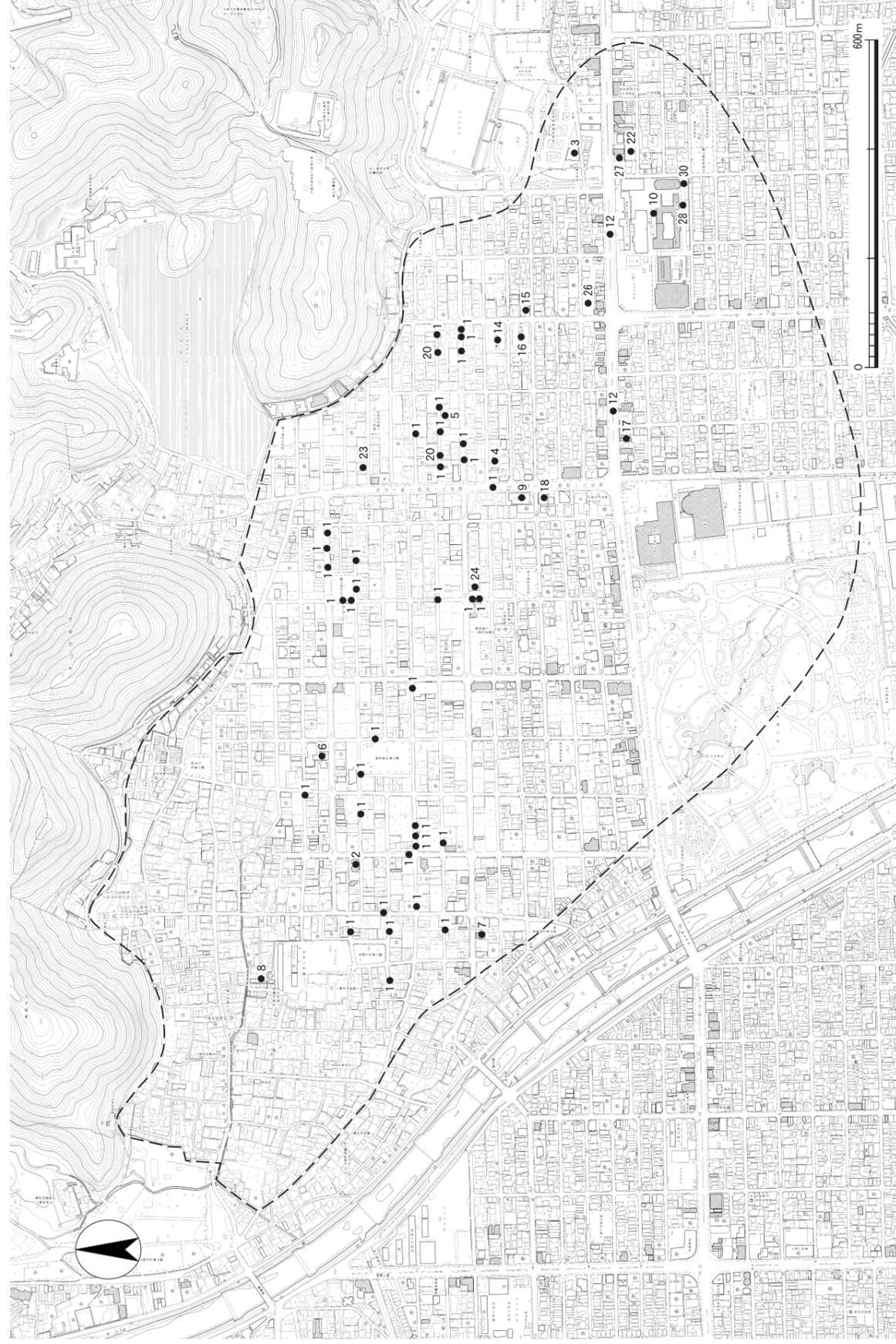


図6 弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡の発見地点（表3）

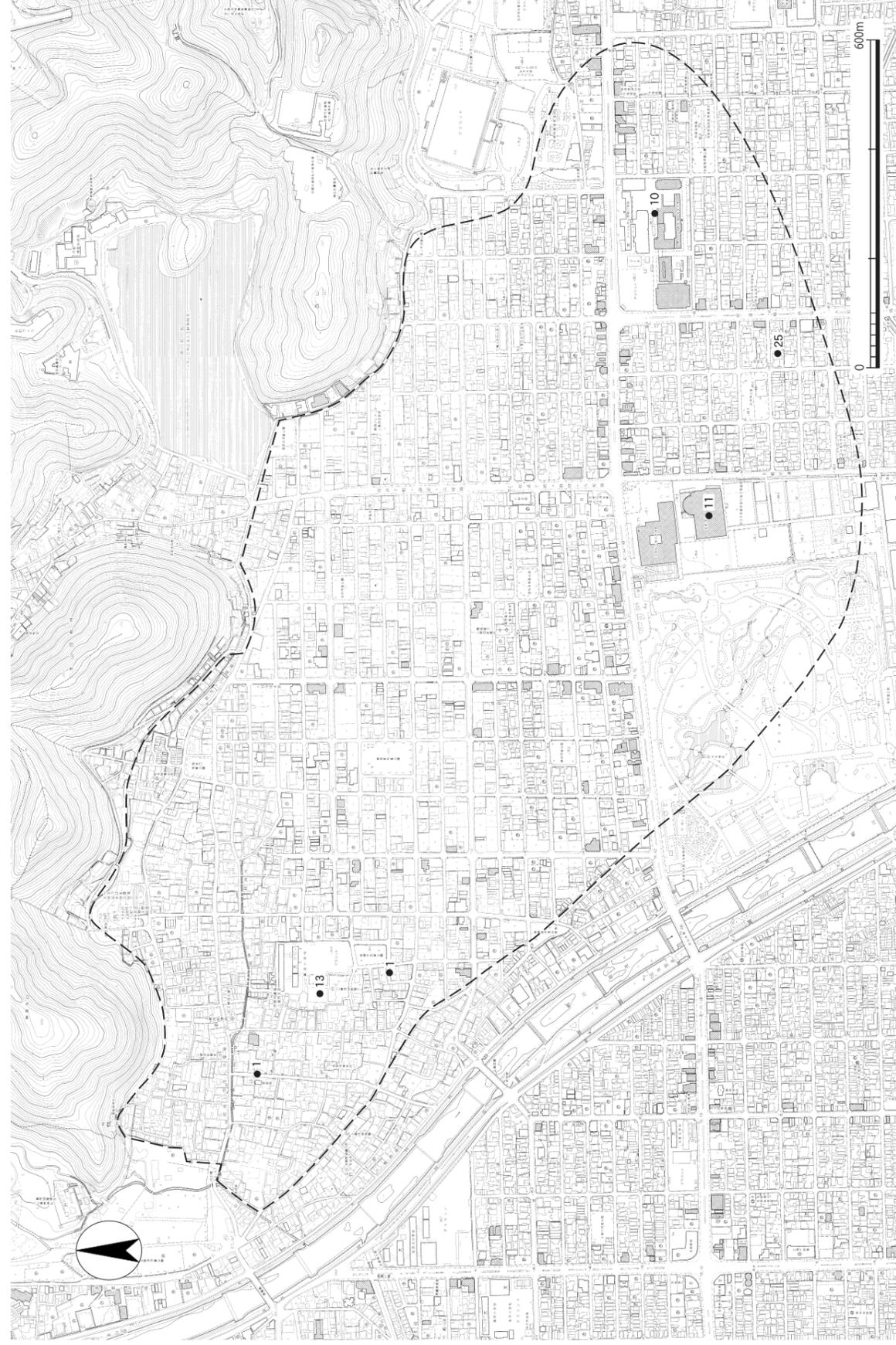


図7 古墳時代後期の竪穴住居跡の発見地点（表3）

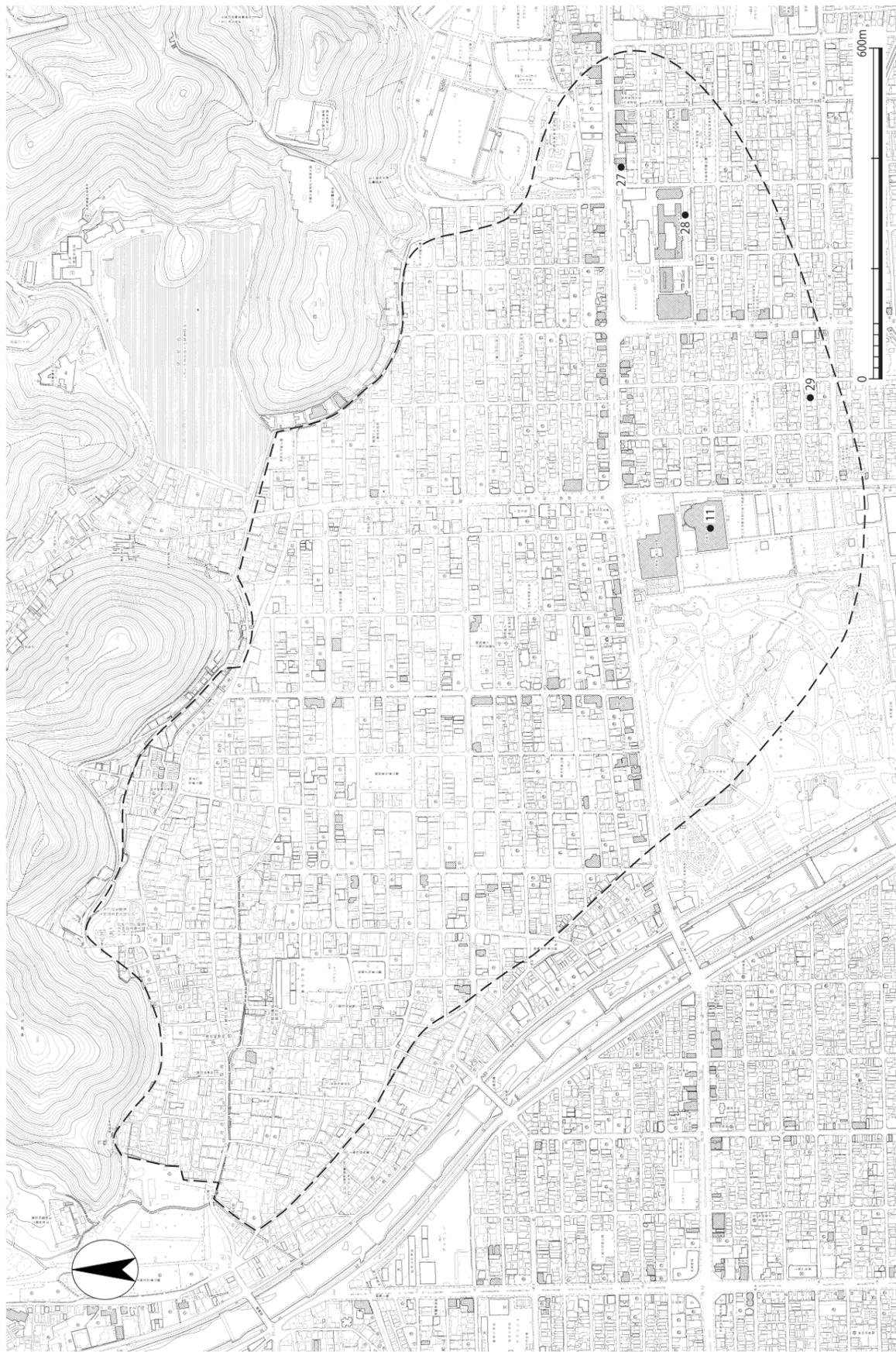


図8 飛鳥時代～奈良時代の竪穴住居跡の発見地点（表3）

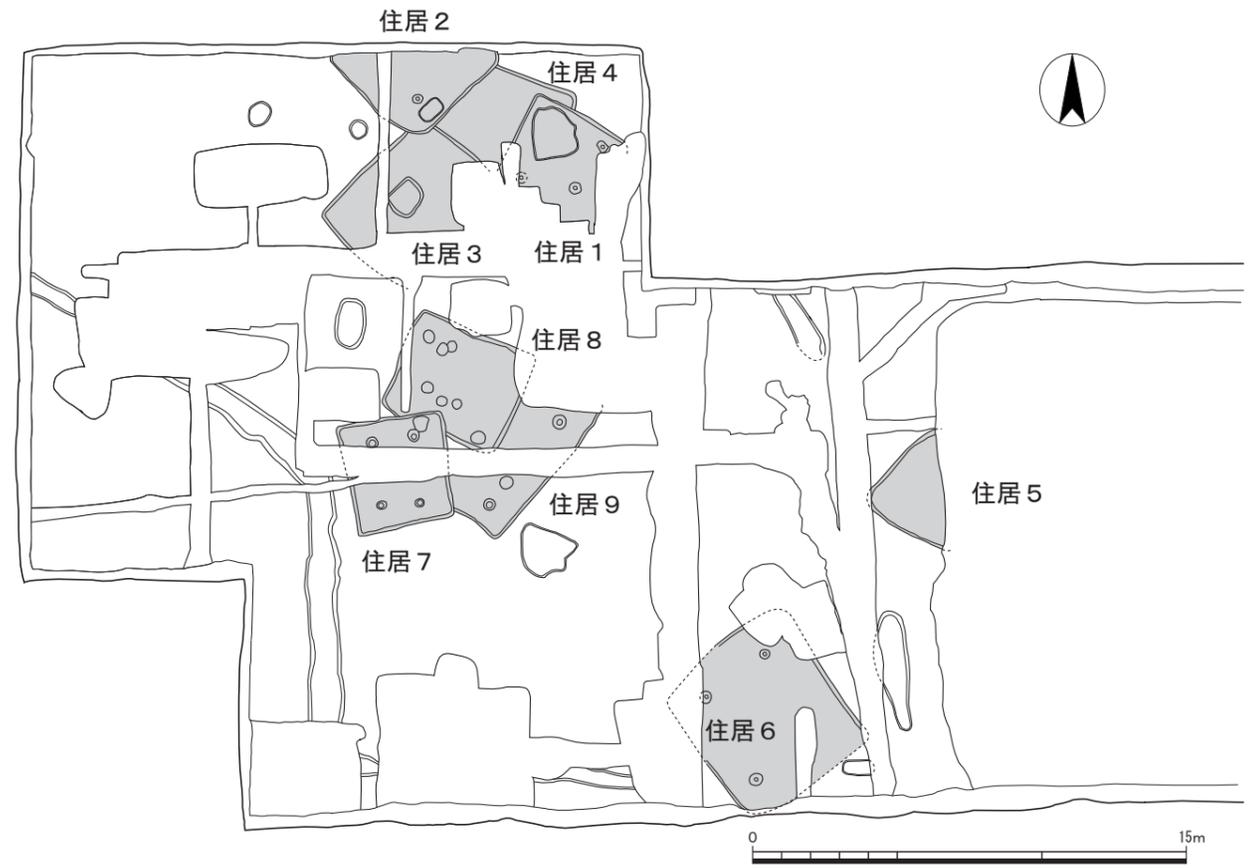


図9 図5の調査地26の発掘調査平面図



図10 図5の調査地25・29と遺跡範囲の変遷

表1 調査件数表

年度	発掘	試掘	立会	年度	発掘	試掘	立会
1979		2	6	1996		3	10
1980		3	9	1997	1	1	10
1981		1	6	1998		3	1
1982	2		6	1999		1	14
1983		1	4	2000	1	2	4
1984	1	2	12	2001		1	15
1985		1	12	2002	1	3	7
1986	1	1	7	2003		1	5
1987			11	2004		1	7
1988		7	8	2005		2	8
1989	2	3	15	2006	1		13
1990	2	3	8	2007	2	1	13
1991	1	1	7	2008			7
1992	2	1	15	2009			7
1993	3	2	10	2010	2	4	9
1994		4	13	2011	1	2	10
1995	1	2	8	合計	24	59	297

表2 縄文時代の遺構・遺物の発見調査一覧

No.	調査主体	調査期間	所在地	遺構	遺物	時期
1	A	78/11/25～81/11/4	北区上賀茂一帯、左京区下鴨の北山通以北の各道路	凹地状堆積2基	深鉢・注口土器	晩期
2	A	84/4/9～5/22	北区上賀茂蟬ヶ垣内町47		縄文式土器	晩期
3	A	86/5/13～8/9	北区上賀茂桜井町～岩ヶ垣内町（北山通）	土器棺墓	深鉢	晩期
4	A	90/5/7～7/30	北区上賀茂松本町98		石匙、石斧	
5	A	91/6/4～92/6/8	左京区下鴨半木町 京都府立大学農場の一部	土器棺墓	縄文式土器	晩期
6	A	96/8/30～9/5	左京区下鴨前萩町5-11	土坑	深鉢	中期
7	A	00/7/31～9/29	北区上賀茂土門町39		深鉢	晩期
8	A	07/11/19～12/15	北区上賀茂豊田町26番、39番		石匙、石斧	
9	A	09/9/1～7	北区上賀茂高縄手町12	土坑5基	深鉢・浅鉢・土製品・石器剥片	後期～晩期

調査主体 A (財)京都市埋蔵文化財研究所

表3 竪穴住居跡の発見調査一覧

No.	調査主体	調査期間	所在地	時期・基数
1	A	78/11/25～81/11/4	北区上賀茂一帯、左京区下鴨の北山通以北の各道路	弥生後～古墳前期・38 古墳後期・3
2	A	84/4/9～5/22	北区上賀茂蟬ヶ垣内町47	弥生後期・2 古墳前期・2
3	A	84/5/22	左京区松ヶ崎本町1	古墳初期・3
4	A	84/6/22	左京区下鴨北芝町18-2	古墳前期・1
5	A	85/1/29	左京区下鴨水口町47	古墳前期・3以上
6	A	85/11/12・13	北区上賀茂向縄手町38	古墳前期・2
7	A	86/8/25～30	北区上賀茂藪田町8	古墳前期・1
8	A	89/4/20～7/11	北区上賀茂竹ヶ鼻町4	古墳前期・2
9	A	90/5/7～7/30	北区上賀茂松本町98	古墳前期・9
10	B	90/8/15～11/2	左京区下鴨南野々神町1 ノートルダム女子大学	弥生後～古墳前期・7 古墳後期・3
11	A	91/6/4～92/6/8	左京区下鴨半木町 京都府立大学農場の一部	古墳末～飛鳥・3 奈良・3
12	A	92/9/16～93/5/26	左京区下鴨前萩町～松ヶ崎吉町田町 北山通	弥生後期・3
13	A	93/4/26～8/21	北区上賀茂鳥帽子ヶ垣内町1 上賀茂小学校	古墳後期・3
14	C	93/7/1～10/5	左京区下鴨北芝町12 府営住宅	弥生後～古墳前期・4
15	D	94/6/8～28	左京区下鴨南茶ノ木町29	古墳前期・1
16	C	96/4/19～8/18	左京区下鴨北芝町 府営住宅	弥生後～古墳初期・4 古墳前期・2
17	A	96/8/30～9/5	左京区下鴨前萩町5-11	古墳前期・1
18	A	99/4/14～19	北区上賀茂岩ヶ垣内町100	古墳前期・2
19	A	00/7/31～9/29	北区上賀茂土門町39	古墳中期・2
20	A	02/5/13～9/5	左京区下鴨水口町 地先	古墳前期・2以上
21	A	05/11/4～11	左京区下鴨水口町57-1	時期不明・1
22	A	06/8/28～9/20	左京区松ヶ崎芝本町6、6-1	古墳前期・6
23	A	06/9/5・6	北区上賀茂池端町41-1	古墳前期・1
24	A	06/10/4～12	北区上賀茂松本町53	古墳前期・1
25	A	06/10/10～13	左京区下鴨神楽町23	古墳後期・1
26	A	07/1/24～4/27	左京区下鴨北野々神町20	弥生後～古墳前期・9
27	A	07/5/29～7/2	左京区松ヶ崎芝本町4-1	古墳前期・3 奈良・1
28	A	10/7/15～11/29	左京区下鴨南野々神町1 ノートルダム女子大学	弥生末～古墳・3 飛鳥・1
29	A	10/12/20～11/3/29	左京区下鴨北園町5、6	飛鳥・2 時期不明・2以上
30	A	11/11/2～8	左京区下鴨南野々神町1-2 ノートルダム女子大学	古墳前1

調査主体 A (財)京都市埋蔵文化財研究所
 B ノートルダム女子大学遺跡調査会
 C (財)京都市埋蔵文化財調査研究センター
 D 京都市埋蔵文化財調査センター